

食生活ジャーナリストの会 公開シンポジウム

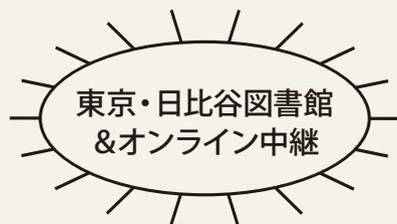
コロナ禍の〈食〉とメディア

—海外と日本それぞれの現場から

新型コロナウイルスの感染拡大によって、人の命と経済がせめぎ合うなか、食の現場で何が起きているか、それをメディアの当事者はどう伝えるか。語り合う場を作ります。見えないウイルスは〈食〉を介して生まれる人と人のコミュニケーションに「NO」を突きつけたともいえます。

この課題にどう向き合えばいいでしょうか。

第1部は、パリとソウルからリアルタイムの報告、第2部はパネル討論で、外食・レストラン、農業・地方、家庭の食卓とそれぞれの視点からいまとこれからを考えます。



11月23日(月・祝)
14時~16時40分

第1部 現地報告・パリ・ソウル

ファシリテーター 小山伸二 (JFJ幹事・辻調理師専門学校)



関口 涼子(せきぐち・りょうこ)
パリ在住の作家、翻訳家、ジャーナリスト
日本語とフランス語、出版とデジタルの
メディアで活動している。アレクサンドル・
ゴーチエやアンヌ＝ソフィー・ピック
などのシェフ本への執筆のほか、
2021年刊行の食文学の叢書『饗宴Le
banquet』(ピキエ社)の編集主幹、季
節観についての『名残』(POL社、ガリ
マール社フォリオ文庫版)はフランスで
ベストセラーになった。文学と食を結ぶイベントなども企画する。
日本語での新刊は『カタストロフ前夜』(明石書店)。2011年フ
ランス政府芸術文化勲章受章。2016年日本翻訳大賞受賞。



鄭 銀淑(チョン・ウンスク)
ソウル在住の紀行作家。
1967年、江原道生まれソウル育ち。世
宗大学院・観光経営学修士修了。90年
代後半、2年間日本留学。現在、ぴあや
双葉社のwebコラム連載中。著書に
『美味しい韓国 ほろ酔い紀行』『馬を
食べる日本人 犬を食べる韓国人』(と
もに双葉社)『韓国酒場紀行』(実業
之日本社)『韓国「県民性」の旅』(東
洋経済新報社)など。NHK「世界入りにくい居酒屋」釜山編など
取材コーディネーター多数。朝日カルチャーセンターや中日文化セン
ターで韓国の食文化に関する講座も担当。

第2部 討論 産地・外食・家庭の食卓

ファシリテーター 長沢美津子 (JFJ幹事・朝日新聞社)



君島 佐和子
(きみじま・さわこ)
雑誌「料理通信」編集
主幹
栃木県生まれ。早稲田
大学第一文学部演劇
専攻卒。1995年「料理
王国」編集部へ。2002
年より編集長を務め
る。06年国内外の食の最前線の情報を独自の
視点で提示する「料理通信」を創刊。編集長
を経て、17年7月から編集主幹に。Web版の
「The Cuisune Press」では、本質的な「食の知」
を目指して様々なコンテンツを届ける。新聞、
雑誌にてコラムを連載。著書に『外食2.0』(朝
日出版社)。



門田 一徳
(もんでん・かずのり)
河北新報社記者
宮城県大崎市出身、明
治大卒。2006年、大崎
市の「鳴子の米プロジ
ェクト」の取材でコミ
ュニティー支援型農業
(CSA)を知る。日米
教育委員会の16年度フルブライト・ジャーナ
リストとしてアメリカ・ニューヨーク州のコ
ーネル大客員研究員に就き、CSAの先進事例
を10カ月間取材。19年、「農業大アメリカで
広がる『小さな農業』進化する産直スタイル『
CSA』」(家の光協会)を刊行。



小竹 貴子
(こたけ・たかこ)
クックパッド株式会社
コーポレートブランデ
ィング担当本部長
エバンジェリスト
石川県生まれ。関西学
院大学社会学部卒。株
式会社博報堂アイ・ス
タジオでWEBディレクターを経験後、2004年
有限会社コイン(後のクックパッド株式会社)
入社。08年執行役就任。09年、日経WOMAN
「ウーマン・オブ・ザ・イヤー2010」を受賞。12
年同社を退社、独立。16年4月クックパッドに
復職、現在に至る。著書に『ちよっとの丸暗記
で外食レベルのごはんになる』(日経BP社)

【会 場】 日比谷図書文化館 スタジオプラス小ホール
【参 加 費】 会員・学生 → 無料 会場参加は会員限定先着40人
申し込みはgoogleフォームから
非会員：オンライン(ZOOM) → 1,000円
申し込みはPeatixから

【問い合わせ】 JFJ事務局 info@jfj-net.com

google
フォーム



Peatix

